あこがれ
憧憬

福島県立坂下高等学校ＰＴＡ会報　第７７号

令和３年３月１日 発行

坂下高等学校PTA会報



『変化への対応力』

校長　松尾幸生

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

このコロナ禍においては、残念なことが多くありましたが、それらを経験しウィズコロナを意識して生活してみると、これまでの人間生活がある面において自由過ぎたのではないか、今まで気付かなかった所により良い生活の仕方があるのではないかなどと考えるようになり、これからの生活の在り方を見直す機会にしなければと思っています。「災い転じて福となす」であります。

ところで昨今、Society（サエティ）5.0という言葉を時々耳にしますが、これはサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させ、経済的な発展と社会的な課題の解決を両立する、人間中心の社会です。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第五期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されました。Society 5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、社会の様々な課題や困難を克服することを目指しています。

コロナの災いを福に転じることも、Society 5.0への対応にしても、今までの常識だけでは通用しなくなることを覚悟しておかなければなりません。これからを生きる若者は、変化を正しく理解して、変化に振り回されることなく、状況に合わせて前向きに臨機応変に対応できる、新たな力を身につける必要があります。

生徒達にとって、これから一番に必要なものは、単なる大人の常識ではなく、ズバリ『変化への対応力』です。